物語2

指導計画案

	指導上の重点目標	学習活動	指導上の留意点
導入	【芥川】 1 物語の中における和歌の役割を確認し、歌物語を鑑賞する。	❶「伊勢物語」について調べてきたことを発表する。知技 ❷ 主人公のモデルとされる在原業平について調べてきたことを発表する。知技	❶ 歌物語であることを確認させる。 ❷ 国語便覧、系図などを利用させる。
展開		❶「芥川」を音読する。思判表 ❷ 重要古語の意味・用法を確認する。知技 →「言葉と表現」1・2 ❸ 現代語訳し、段落ごとに内容を確認する。知技 思判表 ❹ 男と女の境遇と事件の展開について考える。思判表 →「学習のポイント」1 ❺ 明かされた事件の真相について考える。思判表	❶ 韻律に注意させる。 ❸「え得まじかりける」「盗み出でて」などの語句に注意させる。 ❺ 事件の真相として語られている内容について確かめさせる。
まとめと発展		❶「白玉か」の歌に込められた男の心情について考える。思判表 →「学習のポイント」2 ❷ 第三段落があることによる効果を話し合う。主態 →「言語活動」1	❶ 和歌が物語の頂点にあることを確認させる。 ❷ 第三段落があるのとないのとでは物語の印象がどのように変わるかを考え、整理させる。
展開	【東下り】 1 登場人物の心情と和歌との関係に注意し、物語を鑑賞	❶「東下り」を音読する。思判表 ❷ 重要古語の意味・用法を確認する。知技 →「言葉と表現」1	❶ 韻律に注意させる。

する。 2　三首に共通する心情を考える。		
【筒井筒】 1　和歌に表現された男と女の心情を把握し、物語を鑑賞する。 2　和歌に表現された女の心情と、それに対する男の行動を把握し、物語を鑑賞する。 3　「沖つ白浪」と読み比べをし、それぞれの作品の作風の違いについて考える。	**展開** ❶「筒井筒」を音読する。思判表 ❷ 重要古語の意味・用法を確認する。知技 →**「言葉と表現」1** ❸ 現代語訳し、段落ごとに内容を確認する。知技 思判表 ❹「筒井筒」「くらべこし」の歌に込められた男と女の心情を理解する。（「古文の窓3」を参照する）知技 思判表 →**「学習のポイント」1** ❺「風吹けば」の歌の修辞を確認し、女の心情を理解する。知技 思判表 ❻ 大和の女と高安の女の詠んだ歌、振る舞いや性格について比較する。思判表 →**「学習のポイント」2** **まとめと発展** ❶「筒井筒」と「沖つ白浪」を読み比べ、作風の違いについて考察する。主態 →**「言語活動」1**	❸ 現代語訳し、段落ごとに内容を確認する。知技 思判表 →**「学習のポイント」1** ❹「から衣」「駿河なる」の歌の修辞を確認する。知技 **まとめと発展** ❶ 男の心情の推移を「から衣」「駿河なる」「名にし負はば」の三首の歌を追って考える。思判表 主態 →**「言語活動」1** ❹ 修辞については脚注、「和歌の修辞」を活用されたい。 ❶「都」との関連において捉えさせる。 ❶ 韻律に注意させる。 ❷「井」の持っていた意味などにも触れる。 ❸ 男と女の心情に注意させる。当時の結婚形態について触れる。 ❹「筒井筒」という語の現代での意味にも触れる。 ❺ 女の人物像を具体的に描かせる。 ❻ それぞれの女が歌に込めた心情を読み取る。 ❶ グループを作り、「筒井筒」と「沖つ白浪」で描写が違う部分をあげさせる。
【梓弓】 1　四首の歌に表れた男女の心情を読み取り、女の哀切な死を読み味わう。 2　女の死という結末について考える。	**展開** ❶ 梓弓とは何かを想像する。知技 ❷ 全文を音読する。思判表 ❸ 重要古語の意味・用法を確認する。知技 →**「言葉と表現」1**	❶ 言葉から来るイメージを描かせる。 ❷ 音読は単語を意識させ、和歌は韻律にも注意させる。範読を聞かせた後、単独読みや一斉読みなどをさせる。音読を聞く態度も養わせたい。 ❸ 四首の枕詞・序詞、「わぶ」「うるわしみす」「よる」「かぬ」の意味を辞

❹ 現代語訳する。知技 思判表

❺ 四首の歌を解釈する。思判表

❻ 男の歌に表された何が、女の気持ちを変化させ、後を追わせたのかを考える。

❼ 血文字で歌を書きつけた女の心情を考える。

❽ 女の死という結末の印象を話し合う。主態

→「言語活動」1

❾ 女（男）の生き方について考える。思判表

書で調べさせ、古語と現代語の意味の違いに着目させる。「かなし」「いたづらに」など、主題にかかわる語句の意味にも注意させる。また、係り結びの用法を確認させ、女の困惑した心情を強調していることに気づかせる。

❹ 三人（男（夫）・女・新しい男）の関係を明確にしたうえで、物語の流れをつかませる。

❺ 女・男それぞれの心情を読み取り、解釈に生かさせる。

❻ 男（夫）の女への思いやりが、新しい男と生きようとしていた女に、男との深い愛を思い起こさせたことに気づかせる。

❼ 女の情の深さ、無念さ、諦念などを読み取らせる。

❽ 女の死が必然のものとして感じられるのは、生の純粋さ、燃焼度の高さによることを気づかせる。女の生きる世界は男との過去でしかなく、死をもって終わることしかなかったことを理解させる。

❾ 〝もし自分が女（男）だったら〟と仮定した短い感想文を書かせて、それぞれの心情をより深く読み取らせる。それぞれの感想文を発表し合い、さらに考えさせる。

【単元の言語活動４　視点を変えて、物語を書き換える】

1「女」の視点で描かれている「梓弓」を「男」の視点に書き換える。

2　立場の異なる登場人物の視点で物語を捉え直し、物語への理解を深める。

導入	1 「梓弓引けど」「あひ思はで」のそれぞれの歌を詠んだときの「女」の心情を、表の中に整理する。思判表	1 和歌の前までの物語のストーリーを踏まえたうえで、二つの和歌に込められた「女」の心情を考える。
展開	2 「梓弓引けど」「あひ思はで」のそれぞれの歌に対して、「男」はどのような心情を抱いたかを想像し、表に書き込む。思判表 主態 3 「男帰りにけり。」以下を「男」の物語に書き換える。思判表 ❶ グループを作り、ひとりひとりが考えた「男」の心情についてグループ内で発表し、意見をまとめる。 ❷ グループでまとめた意見に従って、「男」の心情に基づいた「男」の行動を考える。 ❸ 「男帰りにけり。」（六九・11）以下を「男」の視点の物語に書き換える。	2 「女」の二つの和歌に対して、それを元の男が目にしていたらどのような気持ちを抱くのかを想像してみる。その際に1で考えた和歌に込められた「女」の心情も参考にする。 ❶ グループを作った後、それぞれで元の男の心情を考える。個人の作業終了後、場面ごとに心情を検討し、グループの意見をまとめる。 ❷ 物語では大まかな行動しか示されていないので、もう少し詳細な行動や心理を付け加えて行く。 ❸ 「男帰りにけり」以下の部分は「女」の描写しかない。それと並行している元の男の物語を、現代語でよいので書いていく。
まとめと発展	4 「男」の視点の物語を発表する。知技 思判表 主態 ❶ グループでまとめた「男」の物語を発表する。 ❷ 発表を聞いて、共感できる点をあげる。	4 視点を変えるという考え方があることに気付かせることを重視したい。 ❷ それぞれのグループの発表を聞いて、共感できる点をメモさせる。その中で自分たちが考えられなかった行動や心情があった場合にはその妥当性を検討させる。